

「水災害対策セミナー ～河川災害から生活を守るためにどのように備えるか～」視聴者アンケート結果

<概要>

- ・2022年7月25日にオンラインで開催した標記セミナーの視聴者を対象に、自然災害に対する意識や対策の状況、セミナーの満足度等に関するアンケートを実施し、当日の視聴者103名のうち70名から回答を得ました（回答率：68.0%）。
- ・アンケートの結果、多くの方がハザードマップを見たことがあり、自宅周辺の被害リスクを認識している一方で、水災害に対して特に対策を行っていない方も半数近くいることがわかりました。また、「あなたにとって心配な自然災害は何ですか（複数回答可）」と聞いたところ、「地震」（94.3%）が最も多く、「大雪」（55.7%）、「河川氾濫」（45.7%）が続きました。
- ・日本損害保険協会北海道支部では、今回のアンケート結果を踏まえ、関係行政・団体等と連携しながら、防災・減災の取組みを推進してまいります。

~~~~~  
<アンケート結果>

問1. 近年、日本各地で地震や台風、豪雨など、自然災害によって甚大な被害が発生しています。あなたは自然災害による被災経験がありますか。（単一回答）

## 【回答】

- ①ある . . . 18名 (25.7%)
- ②ない . . . 52名 (74.3%)

問2. ハザードマップにより、自宅周辺の被害リスクを認識していますか。（単一回答）

## 【回答】

- ①ハザードマップを見たことがあり、被害リスクを認識している  
. . . 50名 (71.4%)
- ②ハザードマップを見たことがあるが、被害リスクまでは認識していない  
. . . 17名 (24.3%)
- ③ハザードマップの存在は知っているが、見たことはない  
. . . 3名 (4.3%)
- ④ハザードマップを知らなかった  
. . . 0名 (0.0%)

問3. 現在、水災害に対して（ハザードマップの確認を除く）何かしらの対策を行っていますか。（単一回答）

## 【回答】

- ①行っている . . . 36名 (51.4%)
- ②行っていない . . . 34名 (48.6%)

問4. 上記3. で「行っている」と回答した方へ、具体的にどのような対策を行っていますか。(複数回答可)

【回答】

- ①非常食や懐中電灯など、避難時に持ち出す備蓄品を用意している  
・・・ 30名 (42.9%)
- ②避難所までの道のりを把握している  
・・・ 24名 (34.3%)
- ③携帯電話が使えず公衆電話のみが使える場合に備えて、家族の連絡先を把握している  
・・・ 22名 (31.4%)
- ④停電時に備えて、ラジオや携帯のアプリなど、複数の情報源を用意している  
・・・ 23名 (32.9%)
- ⑤車中にいて水没した場合に備えて、車のガラスを割るためのハンマーを持っている  
・・・ 7名 (10.0%)
- ⑥水災を補償する火災保険に入っている  
・・・ 25名 (35.7%)
- ⑦住宅に水災害対策を施している  
・・・ 3名 (4.3%)
- ⑧その他  
・・・ 1名 (1.4%)

問5. 問4. で「その他」を選択した方へ、具体的にお答えください。(自由記述)

【回答】

- ・アウトドア用品の整備、燃料の補充、カヤック2艇

問6. 避難に関する情報や気象情報等の防災情報を伝える5段階の「警戒レベル」について、本セミナーへ参加する前に知っていましたか。(単一回答)

【回答】

- ①よく知っていた ・・・ 10名 (14.3%)
- ②だいたい知っていた ・・・ 42名 (60.0%)
- ③あまりよく知らなかった ・・・ 18名 (25.7%)
- ④知らなかった ・・・ 0名 (0.0%)

問7. あなたにとって心配な自然災害は何ですか。(複数回答可)

【回答】

- ①大雪 ・・・ 39名 (55.7%)
- ②強風 ・・・ 28名 (40.0%)
- ③河川氾濫 ・・・ 32名 (45.7%)
- ④内水氾濫 ・・・ 25名 (35.7%)
- ⑤土砂崩れ ・・・ 11名 (15.7%)
- ⑥地震 ・・・ 66名 (94.3%)
- ⑦噴火 ・・・ 10名 (14.3%)
- ⑧津波 ・・・ 19名 (27.1%)
- ⑨その他 ・・・ 0名 (0.0%)

問 8. 本セミナーに参加しようと思った理由は何ですか。(複数回答可)

【回答】

- ①水災害に備える国や自治体の取組みに関心があったから . . . 41名 (58.6%)
- ②避難情報や警戒レベルに関心があったから . . . 24名 (34.3%)
- ③ハザードマップで得られる情報や読み方に関心があったから . . . 33名 (47.1%)
- ④水災害への経済的な備えに関心があったから . . . 31名 (44.3%)
- ⑤その他 . . . 7名 (10.0%)

問 9. 問 8. で「その他」を選択された方へ、具体的にお答えください。(自由記述)

【主な回答】

- ・ニュースで放送される情報より、仕組みや背景を詳しく知りたかったため。
- ・日本損害保険協会のニュースリリースで知り、参加したいと思ったため。
- ・知人から誘いがあったため。

問 10. 本セミナーに参加して、参加目的としていた知識などが得られましたか。満足度でお聞かせください。(単一回答)

- ①満足 . . . 30名 (42.9%)
- ②おおむね満足 . . . 35名 (50.0%)
- ③やや不満 . . . 4名 (5.7%)
- ④不満 . . . 1名 (1.4%)

問 11. 何か気付いたことなどがありましたら、自由にご記入ください。(自由記述)

【主な回答】

<感想>

- ・国、自治体、民間のそれぞれの取組みをわかりやすくご説明いただいてよかった。
- ・災害時の自助対策以外に公的な支援があることを改めて知った。
- ・自然災害の際の公的支援（補償）制度および私的に備える保険それぞれの位置付けや役割がよく理解できた。
- ・次回は、北国ならではの雪害をテーマにしたセミナー開催の検討をお願いしたい。

<質問>

- ・講演②で北海道庁・土田課長補佐が発言された「気象庁の警報を自分で確認し、自主的な避難判断をしてほしい」について、現状、避難情報の取得については受け身の住民が多く、さらに情報弱者、特に高齢者・障害を持つ方・外国人にとって、ネット検索したり、日本語の理解が難しい人も大勢いると思う。このような方々に、自主的な避難判断をするために、具体的にどのような課題があり、解決に向けてどのような周知・普及を行う必要があるのでしょうか？

\*北海道庁からの回答

⇒高齢者・障害を持つ方・外国人の方々の事情は様々で、「情報を受ければ自主的な避難が可能な方」や、「情報を受けても自主避難が困難な方」もいらっしゃいます。

「情報を受ければ自主的な避難が可能な方」には、現在も気象警報や避難情報に関する様々な情報提供ツールがあるなかで、これを更に拡大することが効果的だと考えられます。例えば、外国語版のHPで情報提供をするなどの方法は、各機関も充実を進めているところと認識しています。

一方で、「情報を受けても自主避難が困難な方」には、市町村が主体となって個別の避難計画を作成する必要があり、これについては道からも適切な助言や支援を行いながら作成を進めているところです。今後もこれを継続していく、そしてさらに充実させていく必要があると考えています。

~~~~~

以上